

体位変換を手助け 患者本人の体重を利用したDIY簡易移動式てすり

超音波検査には高齢の方など手すりのないベッドでは側臥位への体位変換が難しい方も多く来られ、「掴まる場所があれば…」という声がよく聞かれました。

そこでベッドと自分の体重で安定する簡易手すりをDIYにて制作しました。シンプルな構造で基本的には頑丈な板に手すりを固定したのですが、ベッドと壁の隙間に置くことで体位変換の際に掴まることができ、患者様の体位変換を助けてくれます。

また底面にはキャスターが付いており、患者様の頭の位置が変わっても簡単に患者様の手元へ移動が可能。壁側にはフェルトを緩衝材として貼付しており壁紙を傷めない構造となっています。

使用条件はベッドが壁面に設置されていること。壁の方へ体を向けるときのみ有効となりますが日々の検査で重宝しています。

注意事項は側臥位への体位変換時には有効だが、起き上がる際に掴まると板がスライドしてしまう点となります。

